

人口動態統計等から見る釜石圏域の状況

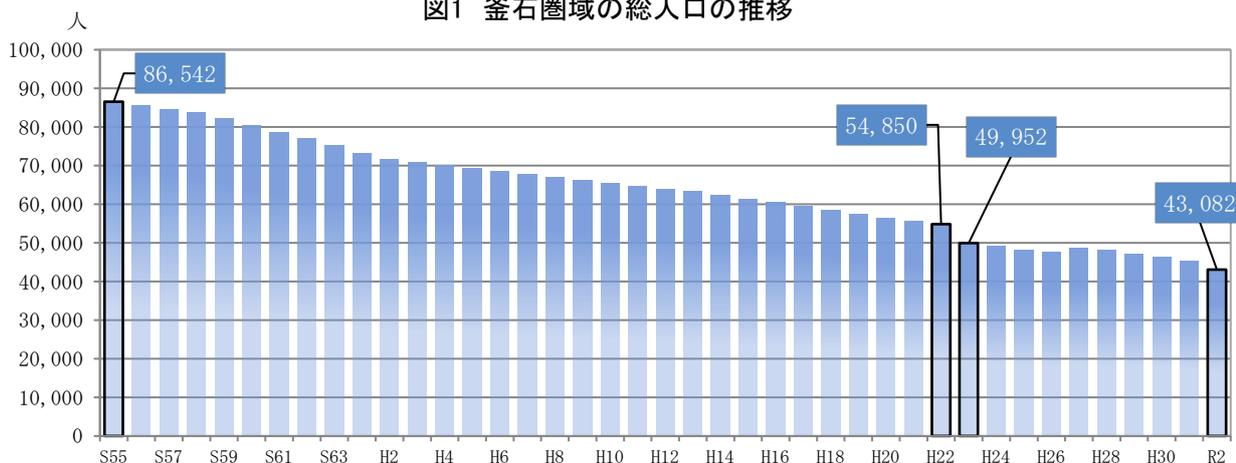
※このホームページで用いているデータは、人口動態統計等から得られた数値及びその数値を基に必要な計算を行い算出しています。従って、計算を行うための基となるデータが得られない等の理由で提供データの開始年次に差が生じています。

I 人口の推移

1 総人口の推移

釜石圏域の人口は、昭和55年の86,542人から、令和2年は43,082人と約40年で43,460人減少しています(図1)。平成23年は東日本大震災津波による影響が大きく、平成22年の54,850人から平成23年は49,952人と4,898人の減となっています(図1)。

図1 釜石圏域の総人口の推移

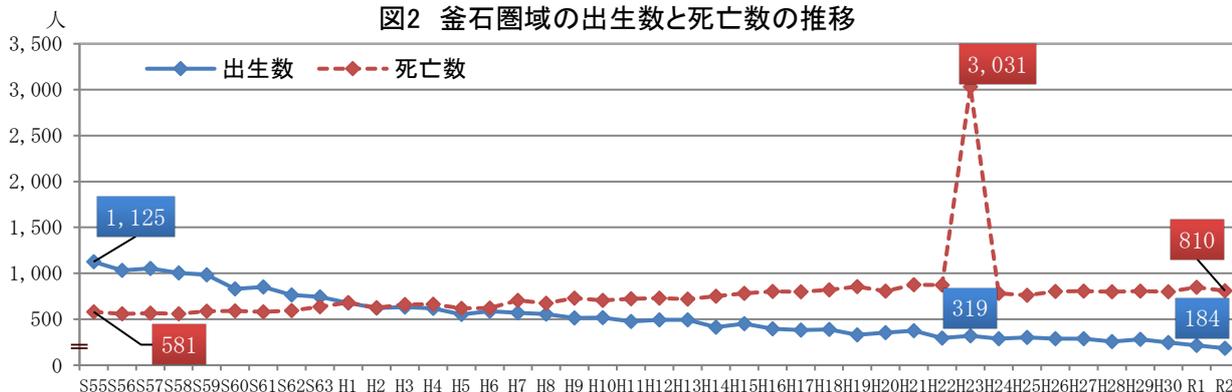


2 人口構成の推移

釜石圏域の1年当たりの出生数は、昭和55年には1,125人でしたが、令和2年は184人とおよそ6分の1になっています。一方、死亡数は、昭和55年の581人から、令和2年は810人となっています。平成23年は東日本大震災津波による不慮の事故死亡数が多く、3,031人となっています(図2)。

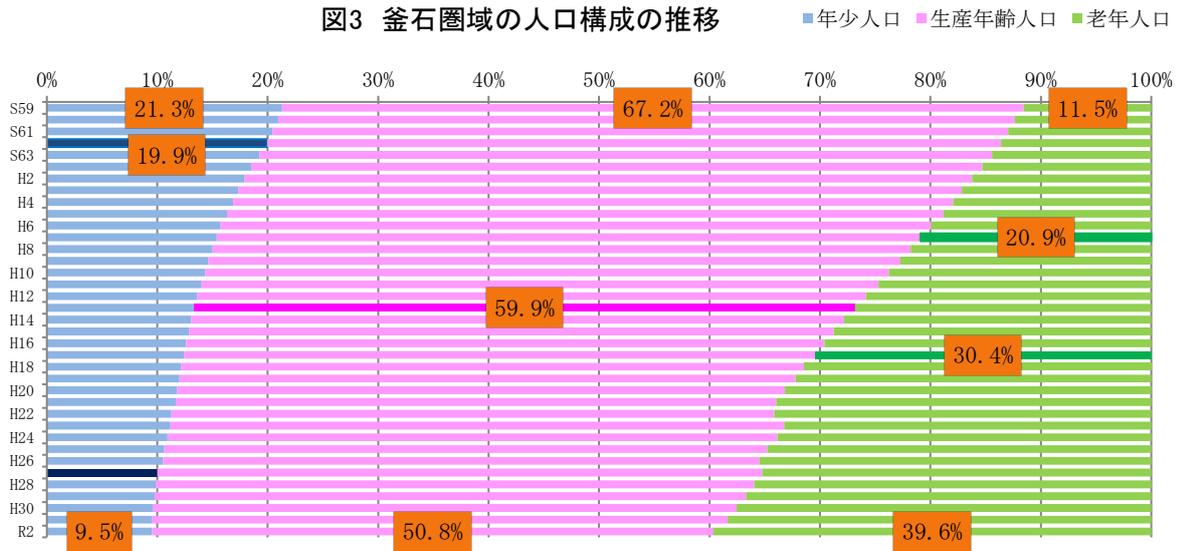
出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は、平成元年にマイナスに転じ、その差は年々広がっています。令和2年の自然増加数は626人減でした。

図2 釜石圏域の出生数と死亡数の推移



釜石圏域の総人口に占める各区分の割合を昭和59年から経年的に見たものが「図3」です。
 年少人口は昭和62年に19.9%となり、令和2年は9.5%まで低下しています。
 老年人口は平成7年に20.9%、平成17年に30.4%となり、令和2年は39.6%と3人に1人が65歳以上という状況です。

図3 釜石圏域の人口構成の推移



3 世帯数及び世帯当たりの世帯員数の推移

釜石圏域の世帯数は、昭和55年の25,458世帯から令和2年には19,252世帯と、約40年で6,206世帯減少しています(図4)。

総人口を世帯数で割った世帯当たりの世帯員数は、昭和59年の3.22人から令和2年は2.24人と減少しています(図5)。

なお、世帯数は、国勢調査年は国勢調査による数値、それ以外は住民基本台帳による数値となっています。

図4 釜石圏域の世帯数の推移

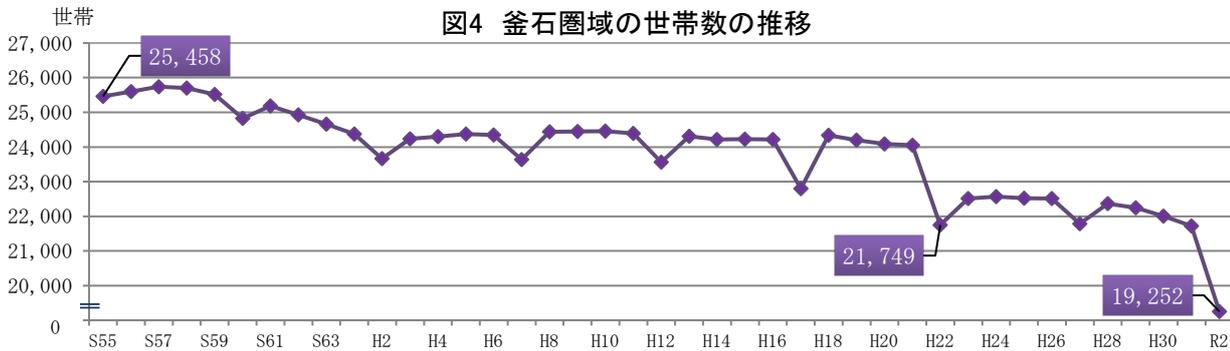
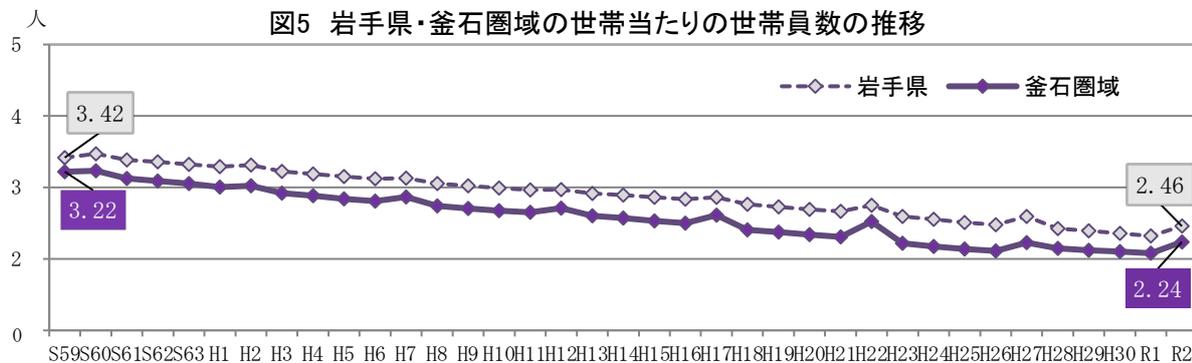


図5 岩手県・釜石圏域の世帯当たりの世帯員数の推移

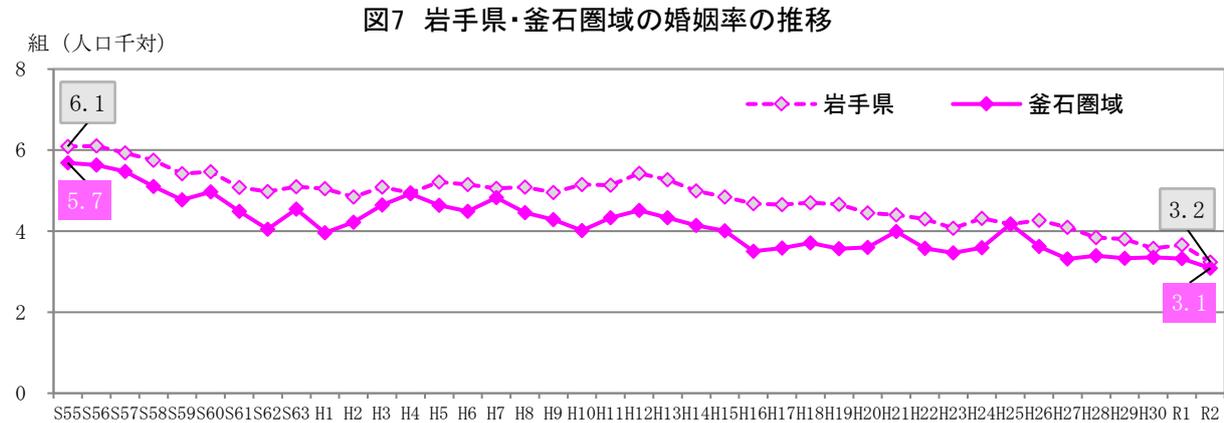
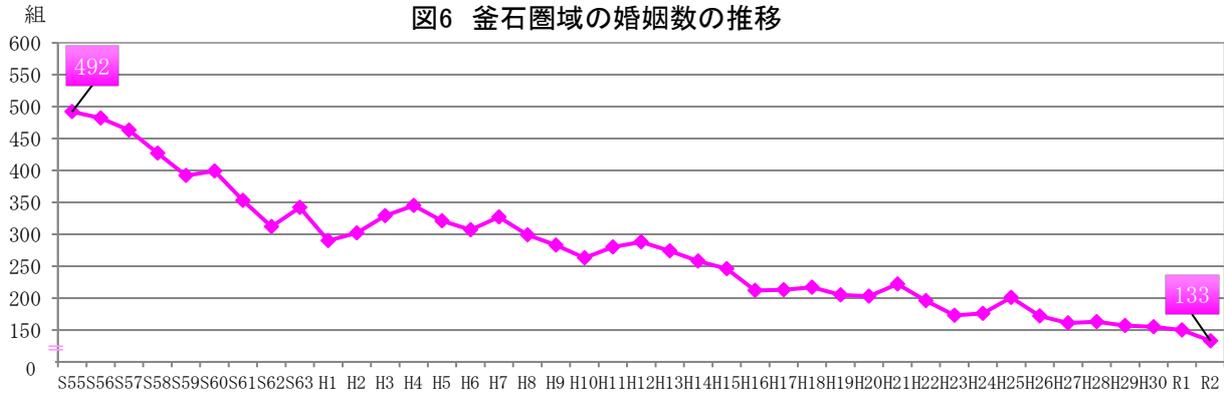


II 婚姻及び離婚の推移

1 婚姻数及び婚姻率の推移

出生は婚姻等との関連が大きいところですが、釜石圏域の婚姻数は昭和55年の492組から減少傾向にあり、昭和59年から平成21年までは400～200組で推移していましたが、平成22年からは200組を下回っています。平成25年は200組を超えましたが、平成26年からは再び200組を下回り、令和2年は133組となりました(図6)。

人口千人当たりの婚姻率は、平成4年、25年を除き岩手県全体より低く推移しています(図7)。



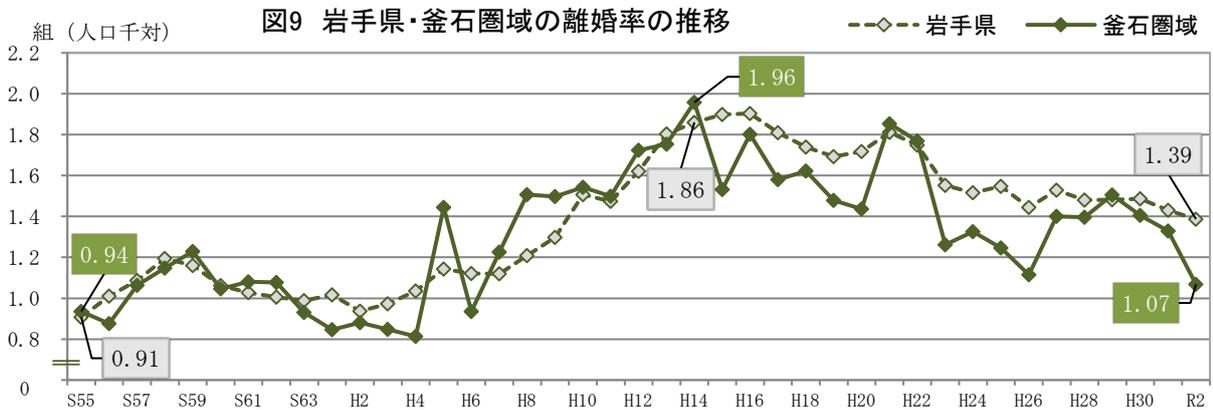
2 婚姻率の圏域別順位 (令和2年高率順)

	岩手県	1位	2位	3位	5位	6位	8位	9位		
圏域名		盛岡	中部	胆江	釜石	宮古	両磐	気仙	久慈	二戸
婚姻率	3.2	3.7	3.4	3.1	3.1	2.9	2.8	2.8	2.3	1.9

3 離婚数及び離婚率の推移

釜石圏域の離婚数は、昭和55年の81組から増減を繰り返しながら増加傾向となっていました。平成14年をピークに減少傾向となり、令和2年は46組でした(図8)。

人口千人当たりの離婚率は、平成14年以降ほぼ岩手県全体と同程度か低く推移していました。令和2年は1.07でした(図9)。



4 離婚率の圏域別順位 (令和2年低率順)

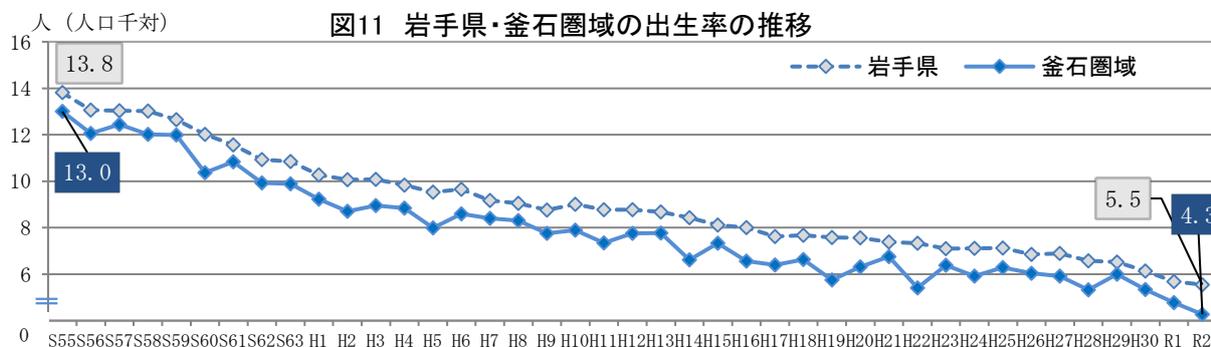
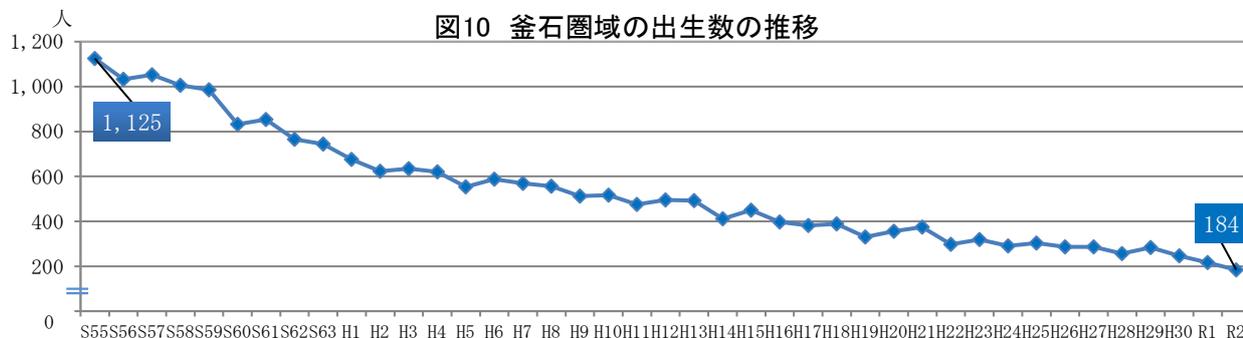
	岩手県	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
圏域名		釜石	久慈	二戸	気仙	両磐	盛岡	中部	宮古	胆江
離婚率	1.39	1.07	1.12	1.20	1.24	1.33	1.39	1.42	1.60	1.61

Ⅲ 出生、周産期死亡、死産、乳児死亡等の推移

1 出生数及び出生率の推移

釜石圏域の出生数は、昭和55年に1,125人から減少し、令和2年には184人とおよそ6分の1に減少しています(図10)。

人口千人当たりの出生率も、昭和55年の13.0から令和2年は4.3と低下しており、いずれの年次も岩手県全体より低く推移しています(図11)。



2 合計特殊出生率の推移

一人の女性が一生に産む子どもの数を表す指標の合計特殊出生率について、釜石圏域は昭和60年から平成5年まではほぼ岩手県全体に近い出生率で推移していましたが、平成6年以降は岩手県全体より高い値で上昇と低下を繰り返して推移しています。平成22年は1.38と県全体を下回り、平成23年からは再び上昇し、増減しつつありますが、令和2年は1.17と昭和60年以降最も低くなっています(図12)。



3 合計特殊出生率の圏域別順位(令和2年高率順)

	岩手県	1位	3位	4位	5位	6位	8位	9位	
圏域名		胆江	宮古	気仙	久慈	両磐	盛岡	中部	釜石
合計特殊出生率	1.32	1.44	1.44	1.36	1.35	1.34	1.30	1.30	1.19

4 周産期死亡数・率の推移

妊娠満22週以降の死産(以下、「後期死産」と言います。)及び出生後満7日未満の死亡(以下、「早期新生児死亡」と言います。)を周産期死亡と言います。周産期死亡率は、出産(出生数と妊娠満22週以後の死産数の合計)千対の率です。

釜石圏域の周産期死亡数は、昭和57年から平成4年まで減少傾向でしたが、平成11年に9人に増加しました。翌年からは5人以下で推移しています。令和2年は2人でした(図13)。

周産期死亡率は昭和57年の9.4から大きく上昇と低下を繰り返し、平成11年は18.7と昭和57年以降最も高くなりましたが、平成20年以降は、8.0より低く推移しています。平成21年からは岩手県全体より低く推移していますが、平成24年以降は岩手県全体より高い傾向になっており、令和2年は10.8でした。(図14、図15)

図13 釜石圏域の周産期死亡数の推移

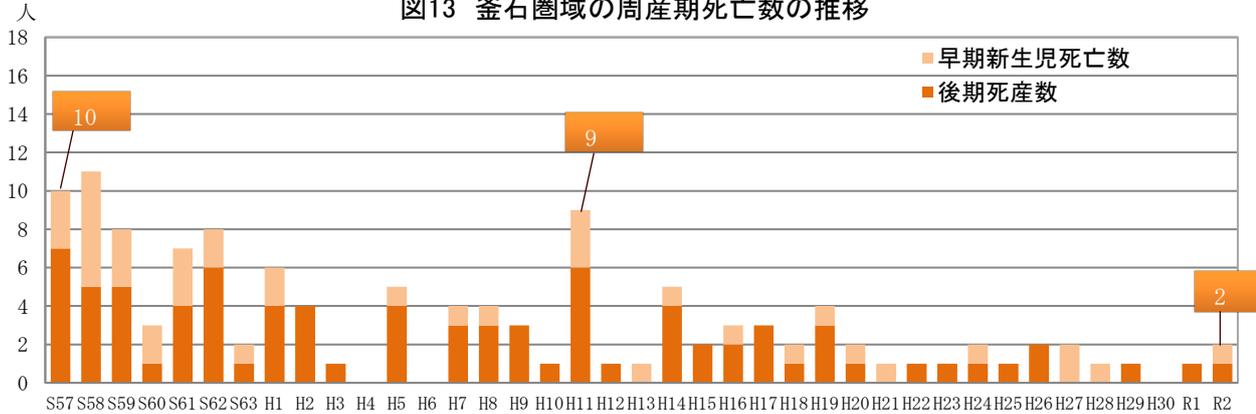


図14 釜石圏域の周産期死亡率の推移

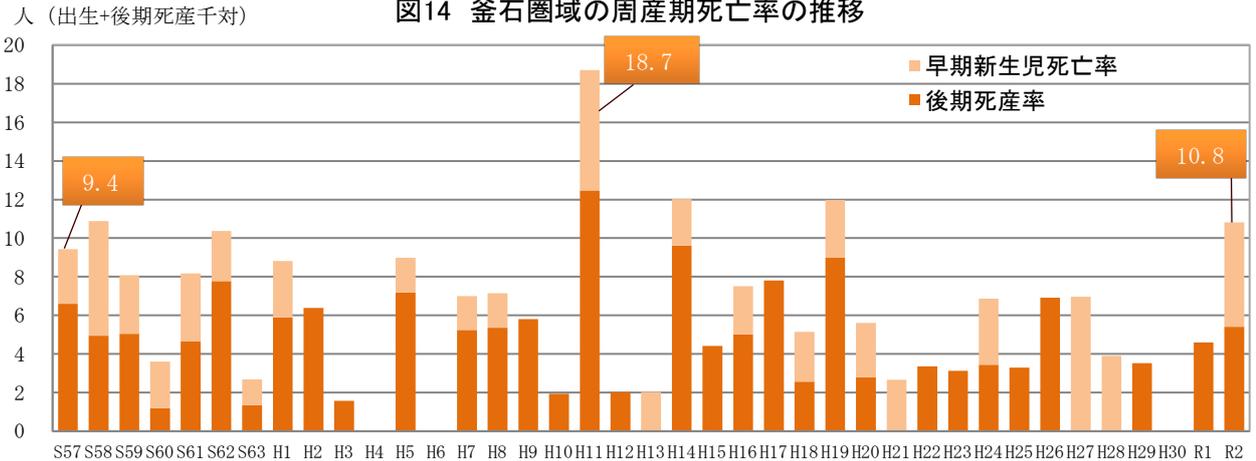
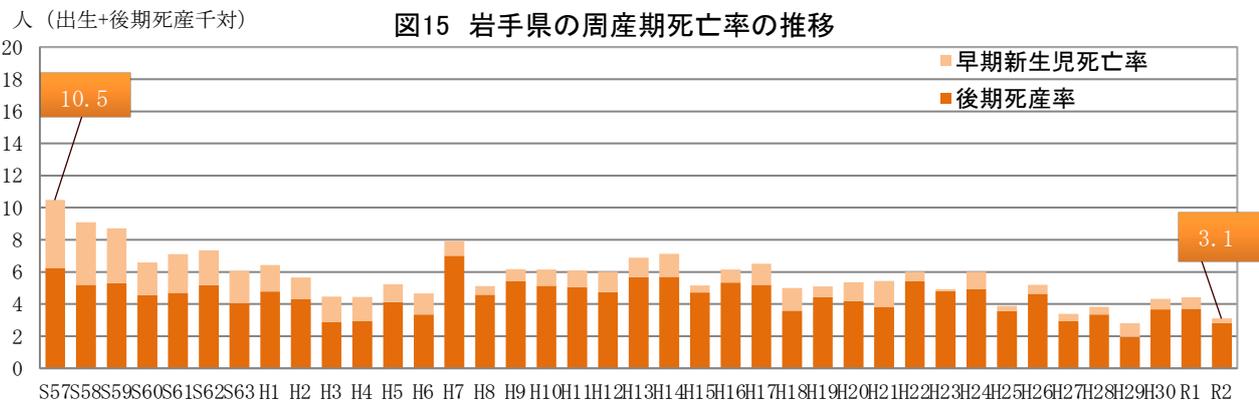


図15 岩手県の周産期死亡率の推移



5 死産数・率の推移

釜石圏域の死産数は、昭和55年の55人から昭和56年は60人に増加しましたが、翌年から減少傾向となり、平成19年以降は10人前後で推移しています。令和2年は7人でした。内訳は、平成18年までは人工死産が半分以上を占めている年次が多くありましたが、近年では、自然死産とほぼ同数もしくは自然死産が人工死産を上回っている年次が多くなっています(図16)。

出産千人当たりの死産率は昭和55年から平成9年まで30.0を超えて推移していましたが、平成15年以降は30.0より低い死産率の年次が多くあります。全体的には岩手県よりやや低く推移していますが、令和2年は36.6と県を上回っています(図17、図18)。

図16 釜石圏域の死産数の推移

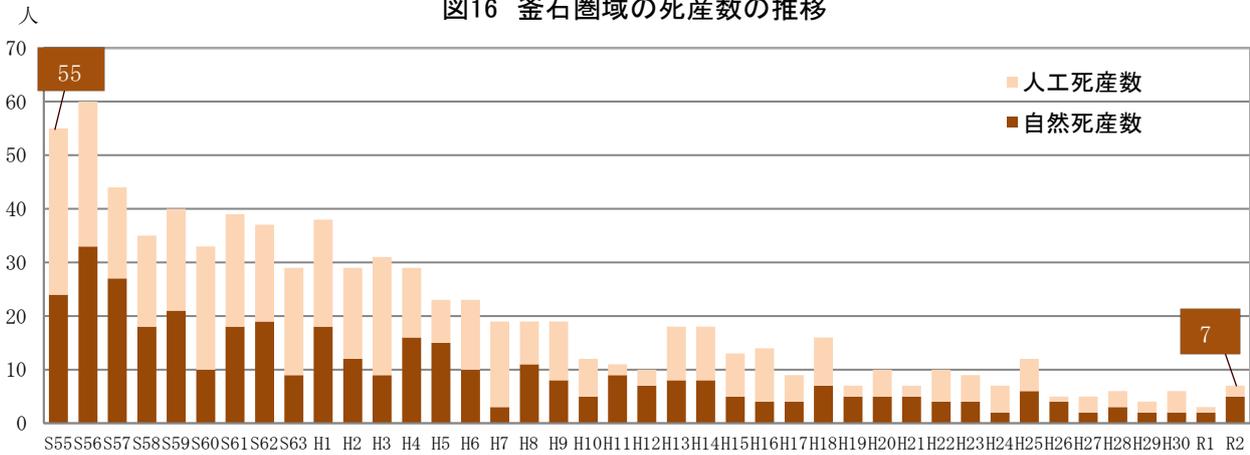


図17 釜石圏域の死産率の推移

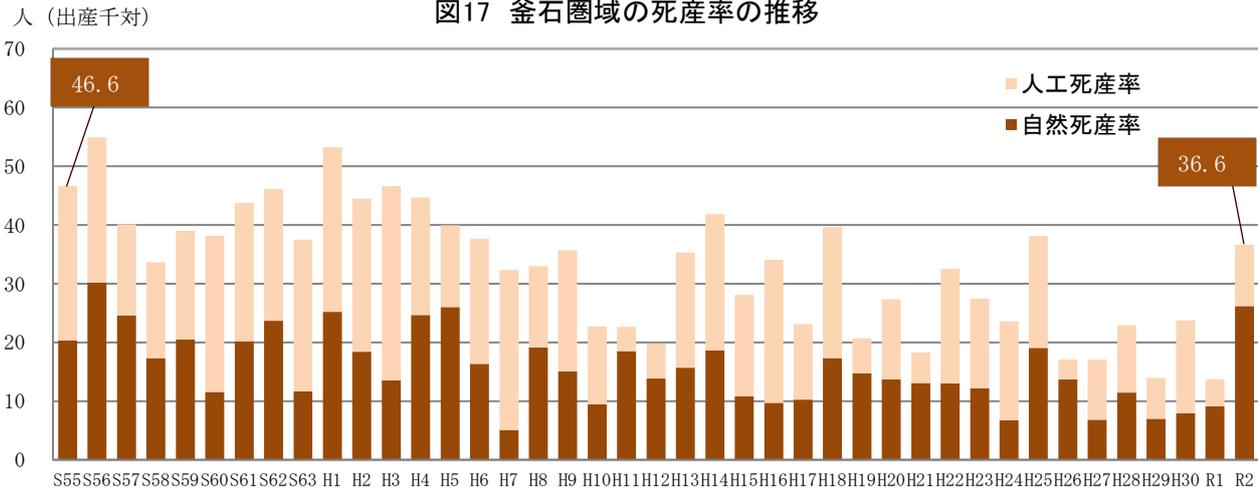
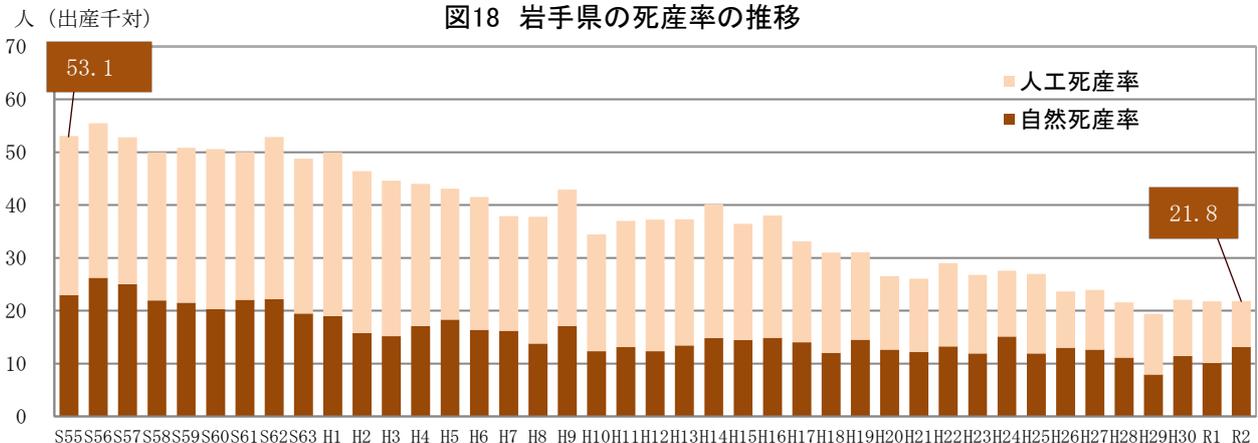


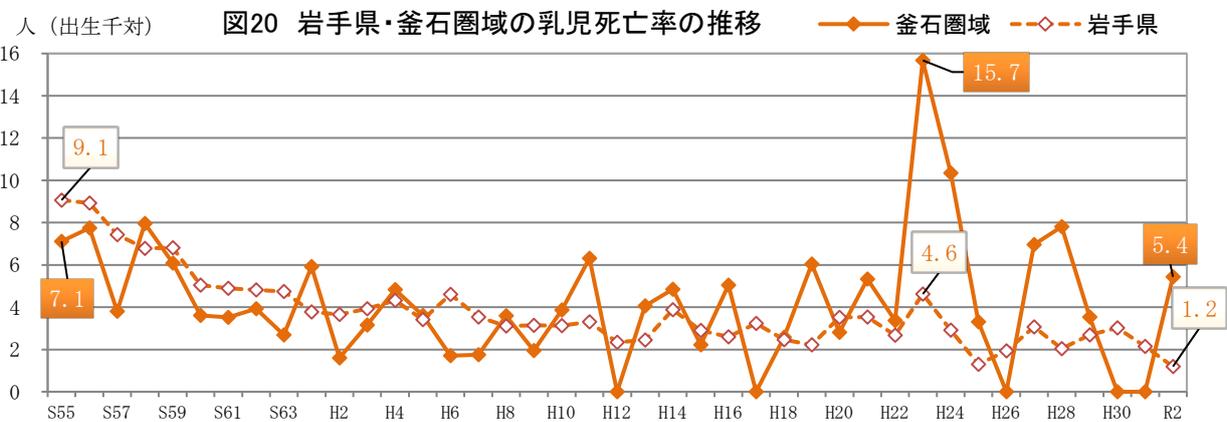
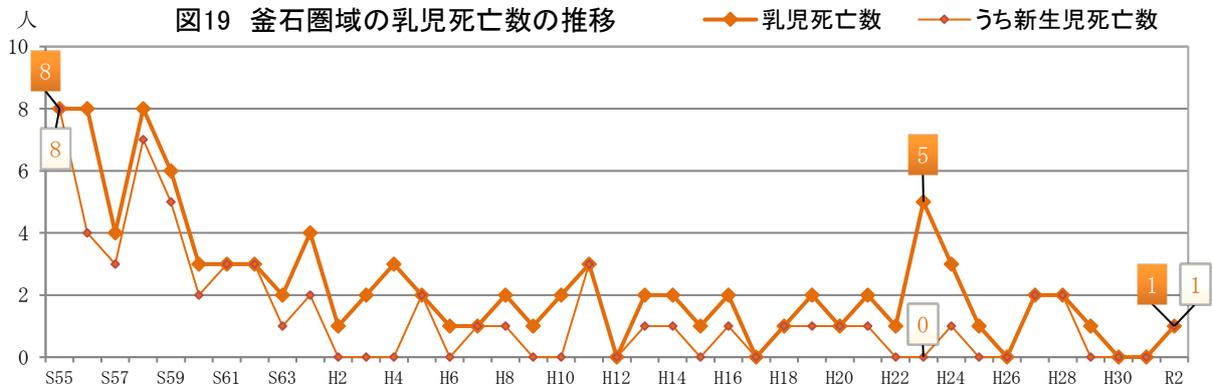
図18 岩手県の死産率の推移



6 乳児死亡数・率の推移

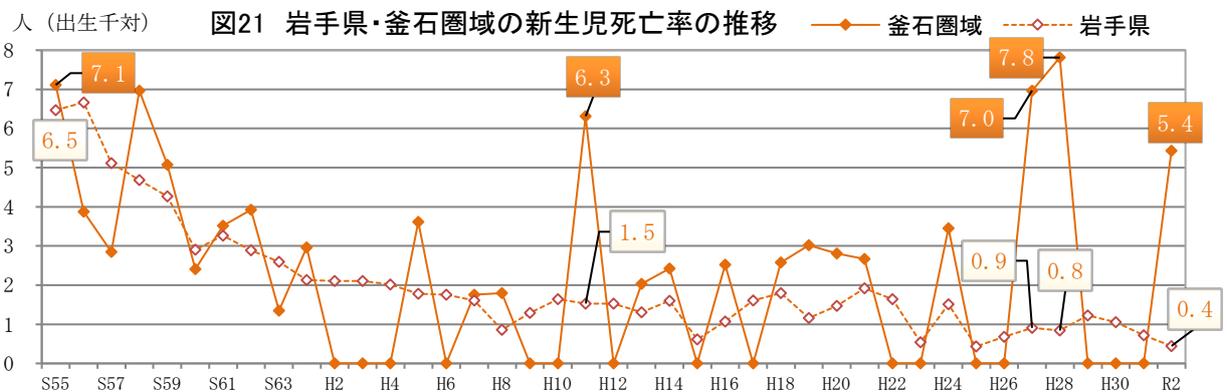
釜石圏域の乳児死亡数は、昭和58年の8人をピークに平成60年以降は4人以下で推移しています。平成23年が5人となっていますが、東日本大震災津波の影響を考慮する必要があります。令和2年は1人でした(図19)。

また、乳児死亡数のうち、生後4週間未満(新生児)の死亡数は、昭和55年の8人から、平成12年以降は0~1人で推移していますが、平成27年、28年は2人と増加しました(図19)。出産千人当たりの乳児死亡率は、大きな幅で上昇と低下を繰り返し令和2年は5.4でした(図20)。



7 新生児死亡率の推移

釜石圏域の出生千人当たりの新生児死亡率は、昭和55年から平成2年にかけて大きく上昇と低下を繰り返しながら低下傾向にありました。平成2年以降概ね4.0以下で推移し、0.0の年次も多くありました。平成11年、27年、28年、令和2年は、急な上昇がみられます。令和2年は5.4でした(図21)。



IV 死亡の推移

1 死亡率の推移

釜石圏域の人口千人当たりの死亡率は、昭和55年6.7と岩手県全体より低い値でしたが、昭和59年に岩手県全体を上回り、以降岩手県全体より高い数値で推移しています。令和2年は18.8でした。

なお、平成23年は東日本大震災津波による不慮の事故の死亡が多いため、釜石圏域は60.7、岩手県では17.0となっています(図22)。



2 年齢調整死亡率の推移

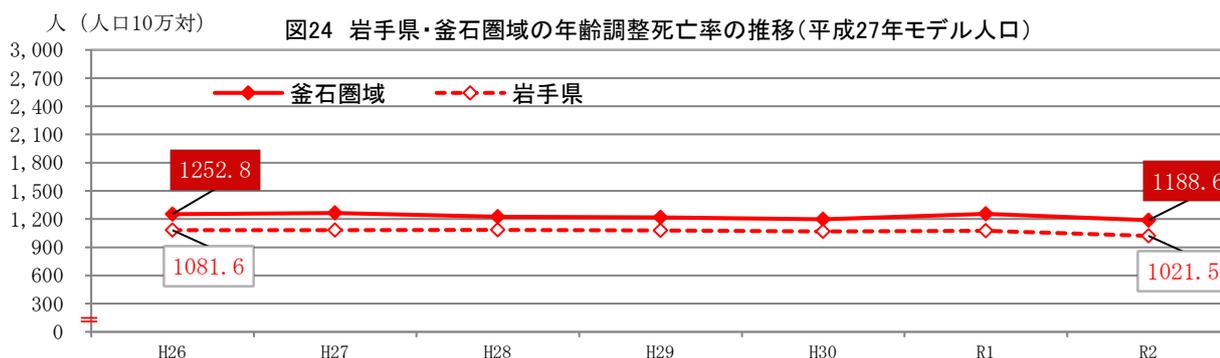
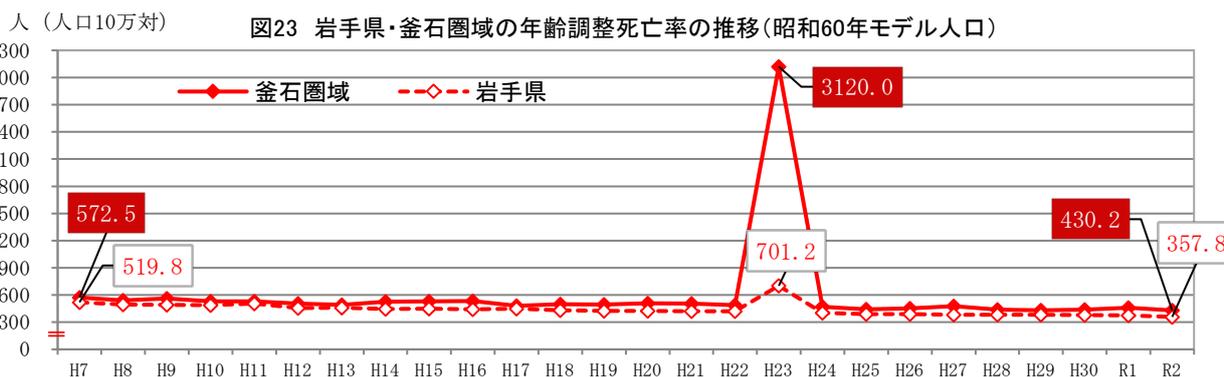
(図23)の人口10万人当たりの年齢調整死亡率※で見ると、釜石圏域は、平成7年は572.5、令和2年は430.2でした。平成23年は東日本大震災津波による不慮の事故死亡が多く、3120.0とはるかに高い率となっています。

なお、(図23)(図24)を見ると、釜石圏域は全ての年次で岩手県全体より高く推移しています。

※年齢調整死亡率:年齢構成の異なる地域間で死亡の状況を比較できるように年齢構成を調整した死亡率が年齢調整死亡率(人口10万人当たり)です。年齢調整死亡率は、従来昭和60年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用した数値を掲載していましたが、令和4年2月25日に厚生労働省が「年齢調整死亡率の基準人口について」を改訂し、新たに平成27年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用することとなりました。この基準人口改訂は、近年の高齢化による人口構成の変化を反映したものとなっています。

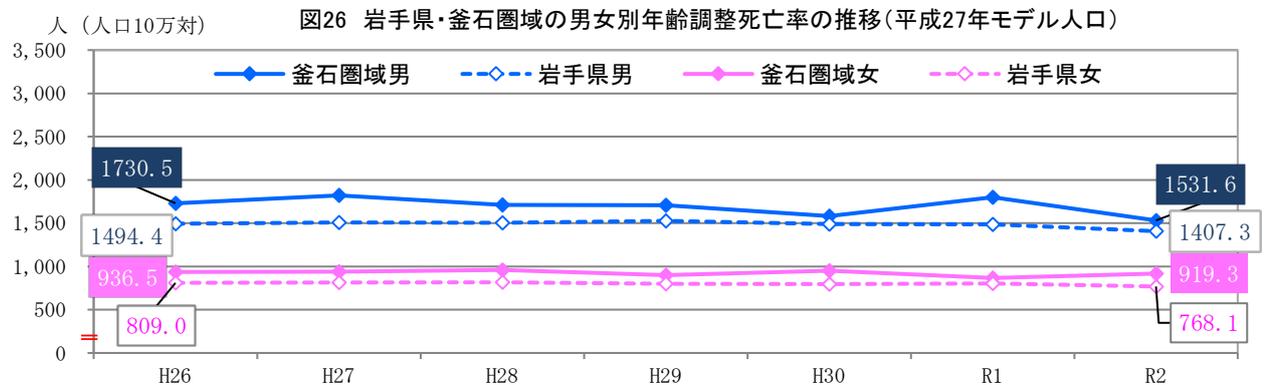
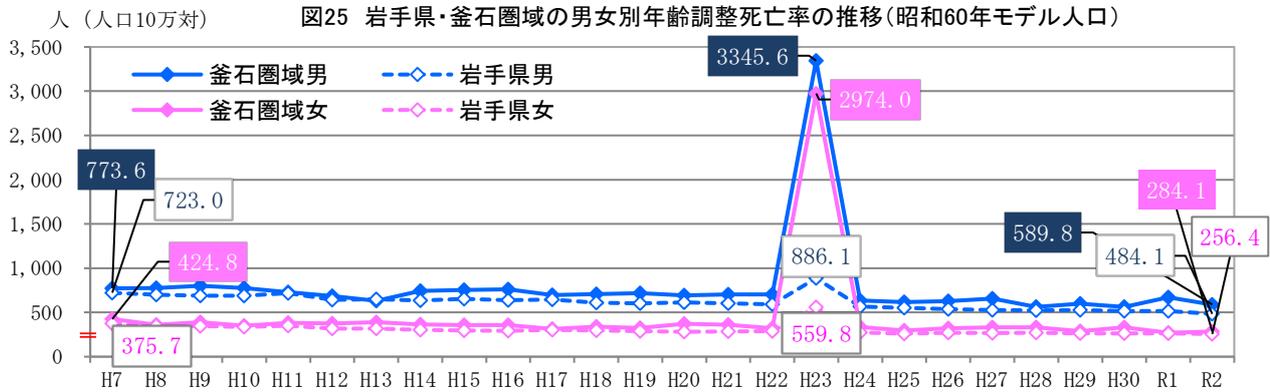
なお、県や市町村の健康増進計画等で使用している年齢調整死亡率は、昭和60年モデル人口を使用した数値を用いており、継続した経年比較や傾向把握が必要であることから、従来に引き続き昭和60年モデル人口を使用した数値を掲載しています。また、新たな県の健康増進計画との比較を考慮し、現行計画の期間(平成26年～令和5年)分について、平成27年モデル人口を使用した数値も掲載しています。

岩手県の年齢調整死亡率は不詳人口を按分して算出、釜石圏域は不詳人口を除いて算出しています。



3 男女別年齢調整死亡率の推移

年齢調整死亡率は、男女で大きく異なることから、男女別で(図25)(図26)に示します。
 (図25)を見ると、釜石圏域の男性は、平成7年の773.6から令和2年は589.8にまで低下しています。女性は、平成7年の424.8から令和2年は284.1にまで低下して推移していることがわかります。
 なお、(図25)(図26)を見ると、釜石圏域は岩手県全体より高く推移しています。男性は女性の約1.7倍前後の値で推移し、男性の死亡率が高い状況です。



4 年齢調整死亡率の死因別順位

死因別の年齢調整死亡率について、岩手県・釜石圏域の男女別にその値を求め、死因毎に値の高い順に5位までを下表に示しています。

区分(昭和60年モデル人口)			第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故
		年齢調整死亡率	153.9	67.7	51.0	25.1	21.1	
	釜石圏域	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故	
		年齢調整死亡率	184.9	74.6	68.3	41.1	31.5	
女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	自殺	
		年齢調整死亡率	92.2	33.2	25.7	17.3	11.3	
	釜石圏域	死因	悪性新生物	脳血管疾患	心疾患	老衰	肺炎	
		年齢調整死亡率	89.5	47.6	32.5	25.3	7.7	

区分(平成27年モデル人口)			第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
		年齢調整死亡率	411.6	213.0	147.2	85.0	82.8	
	釜石圏域	死因	悪性新生物	脳血管疾患	心疾患	肺炎	老衰	
		年齢調整死亡率	475.2	199.6	177.4	108.6	71.3	
	女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
		年齢調整死亡率	214.4	121.6	88.1	84.3	29.6	
釜石圏域	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎		
年齢調整死亡率	226.0	141.6	137.2	121.2	35.3			

＜参考＞令和2年死因別死亡数順位

岩手県・釜石圏域の男女別に死因毎の死亡数の多い順から5位までを示しています。

岩手県と釜石圏域で比較すると、男性は第1位「悪性新生物」は同じ順位となっており、第2位は岩手県は「心疾患」で釜石圏域は「脳血管疾患」、第3位は岩手県は「脳血管疾患」で釜石圏域は「心疾患」、第4位「肺炎」から第5位「老衰」まで同じ順位となっています。女性は第1位「悪性新生物」は同じ順位となっていますが、第2位は岩手県は「心疾患」で釜石圏域は「老衰」、第3位は岩手県は「老衰」で釜石圏域は「心疾患」、第4「脳血管疾患」から第5位「肺炎」まで同じ順位となっています。

区分		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位		
令和2年	男性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
		岩手県	死亡数	2,562	1,254	889	487	428
		釜石圏域	死因	悪性新生物	脳血管疾患	心疾患	肺炎	老衰
		釜石圏域	死亡数	121	49	44	25	15
	女性	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
		岩手県	死亡数	2,019	1,477	1,312	987	381
釜石圏域		死因	悪性新生物	老衰	心疾患	脳血管疾患	肺炎	
釜石圏域		死亡数	90	81	73	53	19	

5 悪性新生物の岩手県・釜石圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「悪性新生物」について、岩手県全体・釜石圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図27)(図28)に示します。

(図27)を見ると、釜石圏域では、男性は平成7年から岩手県全体より高く推移していますが、平成11年、19年、24年は岩手県全体より低く、特に平成28年は159.7と平成7年以降最も低い死亡率となりました。令和2年は184.9と岩手県全体より高く推移しています。女性は、平成11年、17年、令和2年を除き岩手県全体より高く推移しています。令和2年は89.5と岩手県全体よりやや低く推移しています。

(図28)を見ると、釜石圏域は全ての年次で男女ともに岩手県全体より高く推移しています。

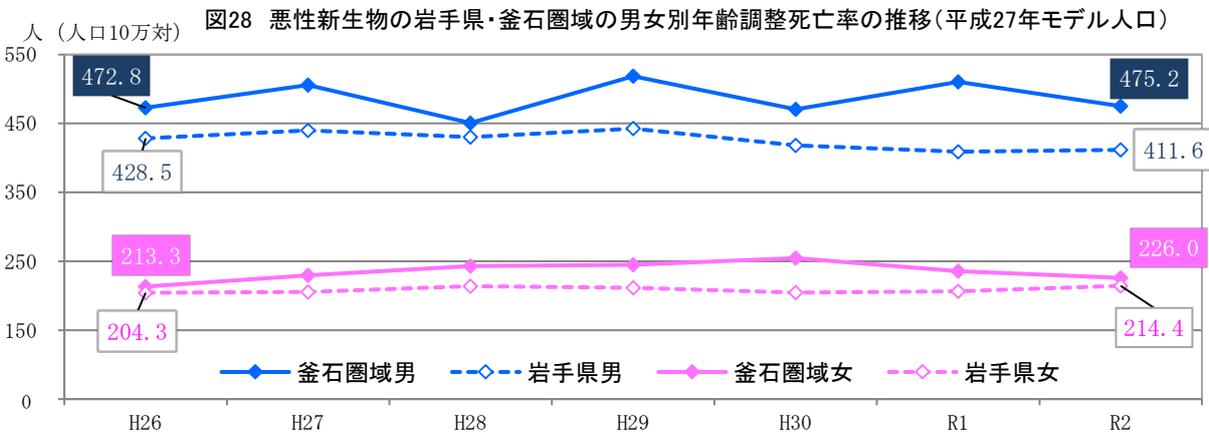
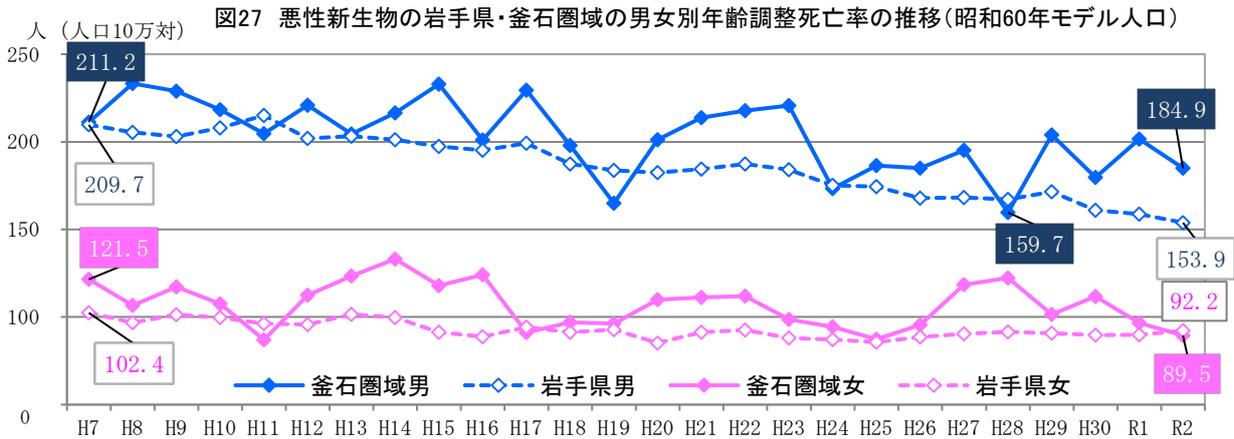


表1 悪性新生物の部位別年齢調整死亡率の順位

悪性新生物の部位別年齢調整死亡率について、令和2年の岩手県・釜石圏域の男女別にその値を求め、値の高い順から3位までを下表に示しています。

		区分(昭和60年モデル人口)	第1位	第2位	第3位
令和2年	男性	岩手県	死因	肺	大腸
		年齢調整死亡率	35.2	26.0	20.6
	釜石圏域	死因	肺	大腸	胃
		年齢調整死亡率	48.1	29.1	23.3
女性	岩手県	死因	大腸	乳	肺
		年齢調整死亡率	14.5	13.4	9.4
	釜石圏域	死因	大腸	乳	子宮
		年齢調整死亡率	18.2	15.9	2.8
		区分(平成27年モデル人口)	第1位	第2位	第3位
令和2年	男性	岩手県	死因	肺	大腸
		年齢調整死亡率	93.5	66.2	55.2
	釜石圏域	死因	肺	胃	大腸
		年齢調整死亡率	129.0	64.2	60.1
女性	岩手県	死因	大腸	肺	乳
		年齢調整死亡率	37.8	26.0	23.1
	釜石圏域	死因	大腸	乳	肺
		年齢調整死亡率	54.1	33.3	12.3

6 心疾患の岩手県・釜石圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「心疾患」について、岩手県全体・釜石圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図29)(図30)に示します。

(図29)を見ると、釜石圏域では、男性は平成7年から大きく上昇と下降を繰り返しながら岩手県全体より高く推移していますが、平成17年、24年は岩手県全体より低く、特に平成24年は73.9と平成7年以降最も低い死亡率となりました。令和2年は74.6と岩手県全体より高く推移しています。女性は、平成12年までは(平成9年を除く)岩手県全体より低く推移していましたが、平成13年以降は高い死亡率で推移しています。平成18年から低下傾向となっていますが、平成30年は上昇に転じ、令和2年は32.5と岩手県全体よりやや低く推移しています。

(図30)を見ると、釜石圏域の男性は年ごとの変動はあるものの、令和2年は岩手県全体より低く推移しています。女性は概ね岩手県全体と同様の傾向を示しているものの、令和2年は岩手県全体より高く推移しています。

図29 心疾患の岩手県・釜石圏域の男女別年齢調整死亡率の推移(昭和60年モデル人口)

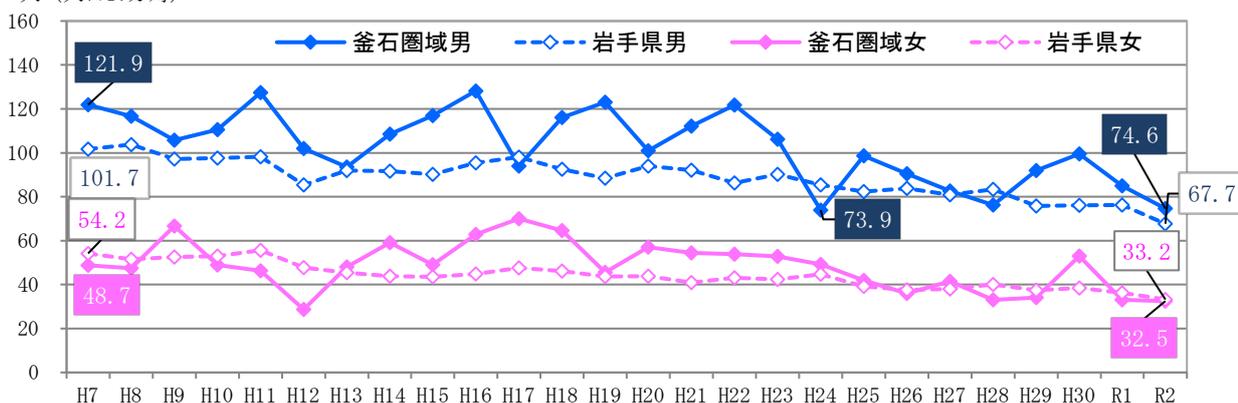
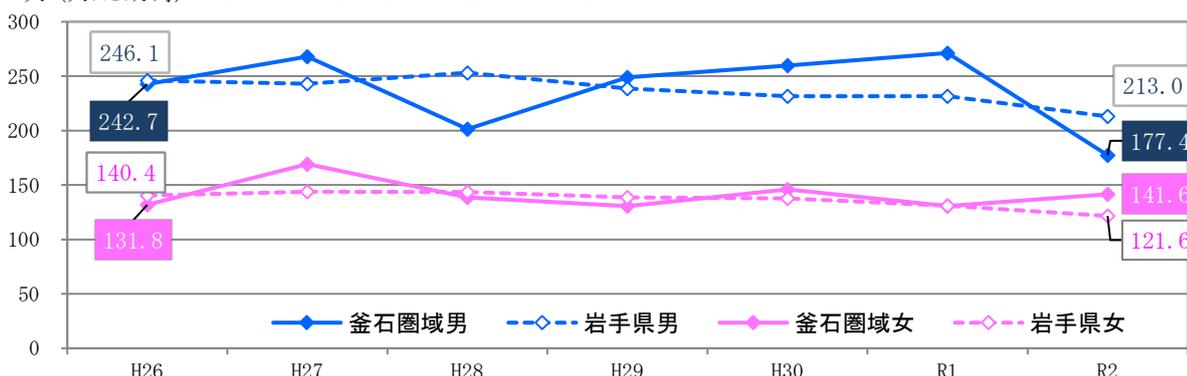


図30 心疾患の岩手県・釜石圏域の男女別年齢調整死亡率の推移(平成27年モデル人口)

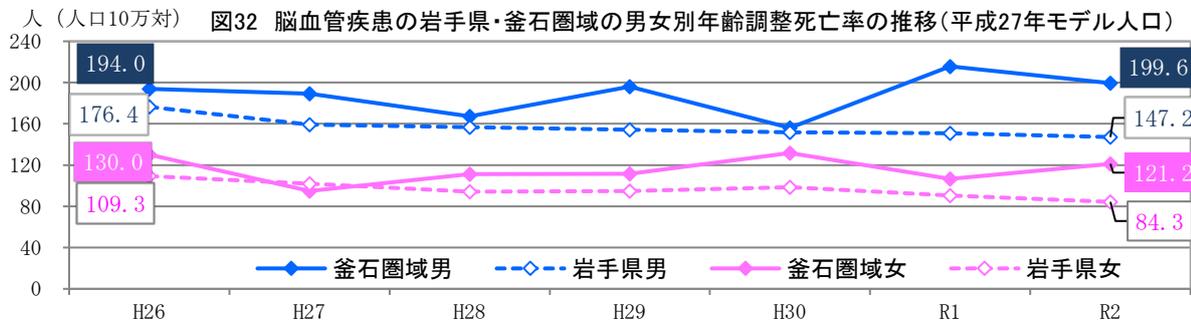
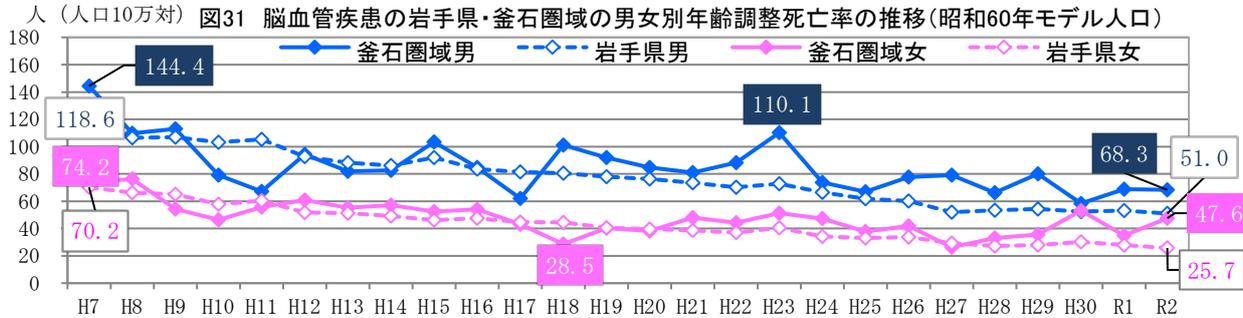


7 脳血管疾患の岩手県・釜石圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「脳血管疾患」について、岩手県全体・釜石圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図31)(図32)に示します。

(図31)を見ると、釜石圏域では、男性は平成7年から平成11年まで低下しましたが、翌年から上昇と低下を繰り返しながら推移し、平成18年からは岩手県全体より高くなっています。近年は平成22年、23年に上昇し、特に平成23年は110.1と高くなっています。これは、東日本大震災津波による影響を考慮する必要があります。令和2年は、68.3と岩手県全体より高く推移しています。女性は、平成7年から緩やかな低下傾向にあり、平成18年には28.5となりました。平成19年からは緩やかな上昇傾向から横ばいで推移し、平成23年以降は増減しつつ緩やかに下降傾向を示していましたが、近年上昇傾向にあり、令和2年は47.6と岩手県全体より高く推移しています。

(図32)を見ると、釜石圏域の男性は全ての年次で岩手県全体より高く推移しています。女性もほとんどの年次で岩手県全体より高く推移しています。

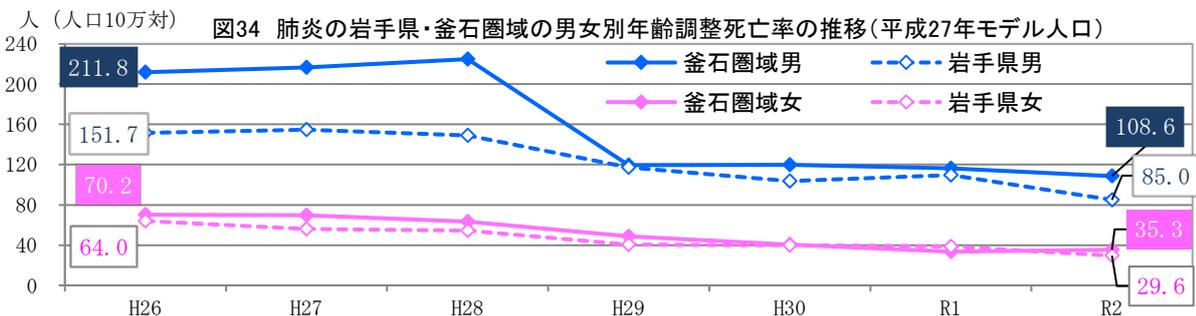
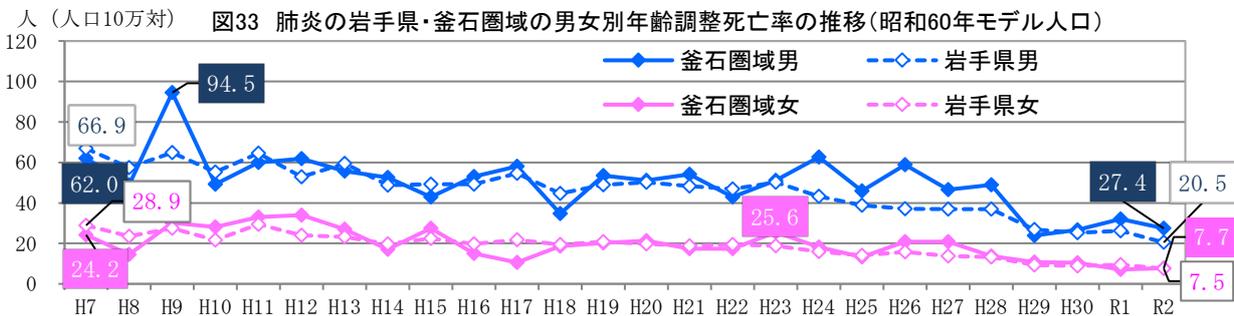


8 肺炎の岩手県・釜石圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「肺炎」について、岩手県全体・釜石圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図33)(図34)に示します。

(図33)を見ると、釜石圏域では、男性は平成9年は94.5と高い死亡率でしたが、平成23年までは岩手県全体と同じ傾向で推移(平成9年、平成18年を除く)、平成24年以降は岩手県全体より概ね高く推移(平成29年を除く)しています。令和2年は27.4と岩手県全体より高く推移しています。女性は、平成7年から平成18年まで上昇と低下を繰り返しながら推移し、平成19年からは横ばいとなっています。また、平成23年以降は、岩手県全体より高い死亡率(平成25年、令和元年を除く)となっています。令和2年は7.7と岩手県全体よりやや高く推移しています。

(図34)を見ると、釜石圏域の男性は全ての年次で岩手県全体より高く推移しています。女性もほとんどの年次で岩手県全体より高く推移しています。

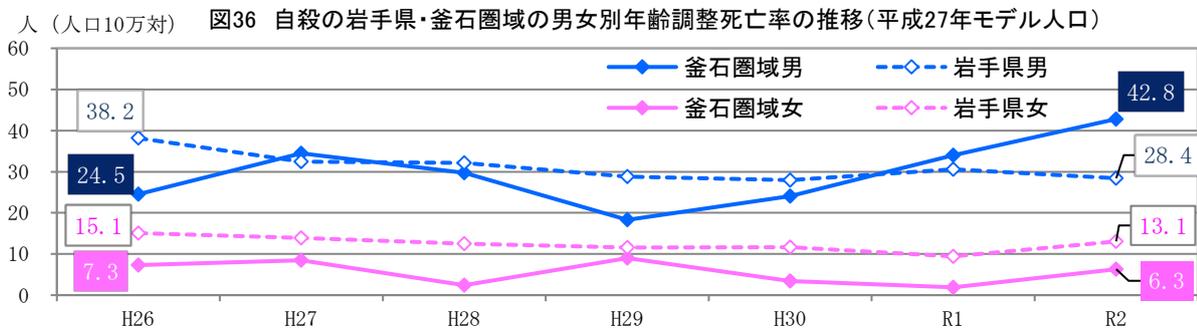
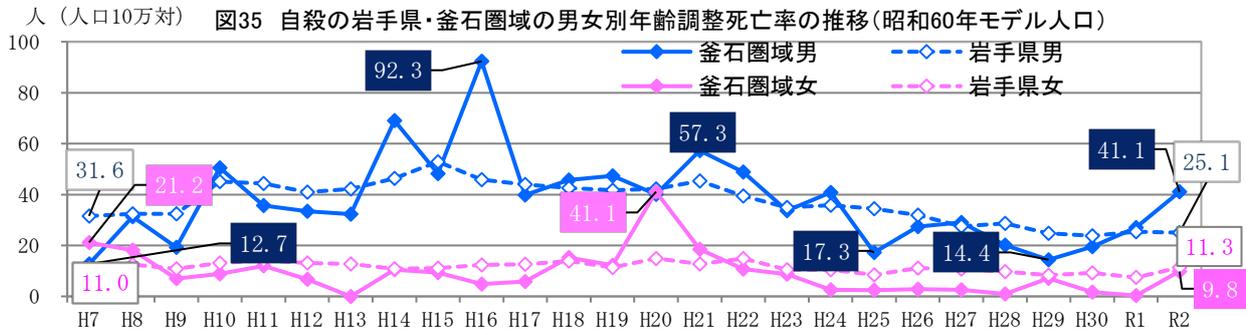


9 自殺の岩手県・釜石圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「自殺」について、岩手県全体・釜石圏域の男女別年齢調整死亡率の推移を(図35)(図36)に示します。

(図35)を見ると、釜石圏域では、男性は平成7年から大きく上昇と低下を繰り返しながら推移し、平成16年が最も高い死亡率となりました。平成17年以降は平成21年に57.3と上昇しましたが、その後低下傾向となり、近年では岩手県全体より低いか、同程度の死亡率で推移していましたが、令和2年は41.1と岩手県全体より高く推移しています。女性は平成9年から岩手県全体より低く推移していましたが、平成18年から21年までは岩手県全体より高く、特に平成20年が41.1と最も高くなっています。翌年から低下傾向となり、平成22年以降岩手県全体より低く推移しています。令和2年は9.8と岩手県全体より低く推移しています。

(図36)を見ると、釜石圏域の男性は年ごとに大きく変動があり、令和2年は岩手県全体より高く推移しています。女性は全ての年次で岩手県全体より低く推移しています。



10 老衰の岩手県・釜石圏域の男女別年齢調整死亡率の推移

「老衰」について、岩手県全体・釜石圏域の男女別の年齢調整死亡率の推移を(図37)(図38)に示します。

(図37)を見ると、特に男性に、急激な落ち込みが見られますが(平成13, 18, 26, 30、令和2年)、男女とも概ね県全体より高い値で推移しています。令和2年は、男性が11.4、女性が25.3でした。

(図38)を見ると、釜石圏域の男性は年ごとに大きく変動があり、令和2年は岩手県全体より低く推移しています。女性は全ての年次で岩手県全体より高く推移しています。

